

平成28年度ボランティア活動支援事業・活動紹介

■ 常盤地区スポーツ少年団スキー部（札幌市）

事業概要

2017年1月7日（土）より3月11日（土）までの毎週土曜日、合計10回の練習を行いました。活動場所は、FU's スノーエリア スキー場で実施しました。

練習時間は、13:50～17:00、約3時間で今シーズンは部員53名です。コーチ・アシスタント登録29名でしたが、コーチ・アシスタントは各

回10～15名程の参加となりました。主な練習としては、基礎スキー、不整地、コブ斜面滑走などで、2月18日（土）はジャンプ記録会、3月4日（土）はタイムトライアル記録会を実施しました。最終日3月11日（土）には、練習終了後、成績発表。納会を行い今シーズンの活動(スキー練習)を終了しております。



活動成果

常盤地区の子ども達をスキーを通して心身ともに育成、成長できるように、無償で指導しております。子ども達は活動の成果として技術面はもとより、精神面や思いやりを持てるようにまで成長しております。1年生から6年生の活動が終了した後には、中学、高校となっても、この活動に参加する子ども達も多く、次の世代へとつながりを持っており、33年間続いております。

今後も長く続けられるように希望しております。

■ 長生民謡会（道央圏 江別市）

事業概要

月7回の民謡歌唱力の向上と技術の修得に努めており、その成果をボランティア活動の中で発表したり、毎月使用している地域の地区センターの年間行事の中で地域の方々に披露し、全国大会への出場を念頭において活動しております。「目的があれば上達する」との考え方からより多くの会員を大会あるいはボランティア、他の団体の発表会へも積極的に参加することとしております。



活動成果

「目的があれば上達する」との考え方から発表する機会を多くつくることによって練

習に力が入り、早く上達したいとの気持ちが練習にも表れるようになり、お互いに切磋琢磨している。又、唄は聞く人のために唄うもので自分の唄に満足してはいけないというのがモットーであり、自分の唄を録音して聞くことを奨励していますので、多くの人の前で平常心で唄う訓練としてボランティアは最高の場所です。

■大麻ベーネアンサンブル（道央圏 江別市）

事業概要

大麻ベーネアンサンブルは2008年（平成8年）に発足し、今年（2016）で創立8周年を迎えています。

現在のメンバーは総数29名で年に一度のコンサートを主体に「交歓舞台発表会」（4月）、「まちかどコンサート」（6月、12月）、「市民器楽祭」（10月）に参加のほか、数名による施設慰問演奏等のボランティア活動をしています。



「定期コンサート」には介護施設及び社会福祉関係の方々をご招待しております。

活動成果

地域の方々に親しみやすいクラシック等の音楽を生演奏で聴いていただき大変好評をいただいております。ひいては地域の文化向上に寄与しております。

■ YBR 団（道央圏 夕張市）

事業概要

ふるさと田舎まつりでは、運営協力及びパンフレットの配布や物販を実施しました。

メロンまつりでは、イベント会場内における子どもの遊び場的なものとして水ヨーヨー釣りを実施するとともに、紙風船などの昔あそびを実施しました。



活動成果

ふるさと田舎まつりにあってはまちづくりの推進の一助として、メロンまつりにあっては、子ども達に大好評であったため、子どもの健全育成の一助となれたものと感じました。

■ 一般社団法人 そらちアダプテッドスポーツ協会（道央圏 岩見沢市）

事業概要

地元金融機関のご協力により、周年事業開催中に展示会場を提供していただきました。

当初、開催日は10月14日（金）を予定しておりましたが、当日は年金支給日にあたり高齢者の来店客が非常に多くなる見込となり、2日前倒して実施することになった事で、教育大学の研究室の学外出張授業と重なり、写経する予定だった大型特殊車いすなどの借用ができなくなり残念でした。

開催準備作業は、普段定期開催している高齢者・障がい者スポーツ体験会に参加している方々にお手伝いいただいたため、運搬費・借用料・交通費等は最小限に迎えられました。



活動の成果

リオのパラリンピック大会があり、普段あまり馴染みの薄い障がい者スポーツや高齢者スポーツへの知識や理解が増えた感じがします。しかし、実際に体験できるのはごく限られた人たちでしょう。

幸い、北海道教育大学岩見沢校にはアダプテッドスポーツ研究室があり、定期的な大学解放事業を行っています。私たちは一般市民が直接パラスポーツの用語・道具類に触れてプレイしてきた身近に感じてくれるのが一番の理解の近道だと思っています。

今回の展示体験室当日は雨模様で来客数は少なかったのですが、一般の市民の方々がパラスポーツの用具類を直接見て、触って何かを感じていただければ、そこを出発点に地道に成果をあげていきたいと思えます。

■ 在宅介護ボランティア 輪っこの会（道央圏 岩見沢市）

事業概要

① 在宅ボランティア

岩見沢市内に住む60代女性（生涯がある方）の見守り・遊び相手

② 施設ボランティア（3施設）

基本的に利用されている方の話し相手ですが、作業の手伝いお風呂上がりのドライヤーかけ、見守り、配膳手伝いなど行っています。

③ いわみざわ健康まつり、高齢者福祉センターまつり協力（出店）



活動の成果

- ① 在宅ボランティア（H28. 4～H28. 11 ボランティア合計33名）
対象者の見守り、遊び相手の間にお世話している家族の方に洗濯や台所等の仕事ができたと喜ばれました。
- ② 施設ボランティア（H28. 4～H29. 3 ボランティア合計440名）
利用者の中には認知症を患っておられる方も多く、時には一対一の対応が必要な時もあります。職員だけでは手が回らない時などもお手伝いさせていただきました。一日のボランティアが終わって職員さんに“助かりました”といわれました時はとてもうれしく思いました。
- ③ いわみざわ健康まつり（6/12）、高齢者福祉センターまつり出店（8/6）（ボランティア合計37名）
各お祭り、うどん、そば200食、焼きそば200～300食作りました。

■ ボランティア なごみ（道央圏 芦別市）

事業概要

ボランティアなごみの目的は、集った方々とともに、元気に笑顔な時間が過ごせるように活動することです。

・星の広場

第1火曜日、第2水曜日、各2名で、個人状況の守秘義務を守りながら、学習、生活補助、ゲームを一緒に楽しんだり、個人に合わせた、作品作りのお手伝いをします。

・すばる

第3火曜日、2名で、入居者のゲーム・レクリエーション補助。

・赤い羽根共同募金

10月、2ヶ所に分かれて募金活動。

・研修

・会報作り（今回より初めて作成）



活動成果

- ・通所施設の方より、買物先にて、通所者より、声を掛けられたり、お互いに合うと笑顔で挨拶を交わしています。
- ・たくさんの方々と出会えて、自分の世界が広がりました。
- ・自分は人と違ってても良いのだと思えるようになり、コンプレックスから解放され、完全な人間などいない、ありのままの自分で、自分のできることを協力しようと思えるようになりました。
- ・お互いに元気をもらい、自信を持って、前向きに健康にそれぞれが気使い、思いやりをもって、活動できるようになりました。

■ 特定非営利活動法人 まち・川づくりサポートセンター（道央圏 滝川市）

事業概要

5月下旬の日曜日「石狩川クリーンアップ作戦」と称し、石狩川の河川敷や堤防、ショートカットにより取り残された「ラウネ川」周辺のゴミ拾いを計画しました。

活動に賛同してくれている企業や市民に広く参加を呼びかけ、石狩河野環境保全、水環境・自然環境の大切さを行動で考えてもらうように計画しました。



活動の成果

活動に賛同する市民や家族連れ、企業から約100名が参加しました。

石狩河野河川敷や堤防、ショートカットにより取り残された「ラウネ川」周辺のゴミ拾いをし、石狩河野恩恵を受けて生活が成り立っていることや、河川環境の大切さや環境保全について、考えてもらう好機になりました。

■ 滝川地区認知症の人と共に歩む家族の会 あげぼの会（道央圏 滝川市）

事業概要

例会日、1日宅老「ひだまりサロン」事業では、午前9：00～15：00の間、おしゃべりしたりゲームを楽しんだり、脳トレゲームをして楽しんでいます。月1回認知症カフェを行っている。学習会は年3回程やっており認知症サポーター養成講座、勉強会、講演会など行っています。

また、在宅の介護者に対して、相談にのったり、家へ訪問し利用者本人との面会なども行い、少しでも家族の方へ悩みなどの軽減に努めています。年2回の交流会では市内高齢者施設の方や地域住民の方も参加し、広い会場で行っています。

例会には毎回、ふまねっと運動を行って、転倒予防をしている。リフレッシュの集いでは、お花畑見学、日帰り温泉旅行などに行き、リフレッシュしています。



活動の成果

例会の日は、80歳以上の方や体の不自由な人が自宅までの送迎をすることで、家に閉じこもっていた方々が参加しやすい環境により、名前だけの会員の方が、毎回楽しんで参加してくれるようになりました。

心配なことがある方は、元看護師や介護職の方がアドバイスし、不安に取り除くなどの対応をしています。

また、例会日には、全員の血圧測定をし、その日の体調により横になって休んでもらうなどしていました。家にいてもあまり笑うことがなくても例会に参加することで、おしゃべり、レクリエーションをして、笑いの絶えない1日を過ごすことが多くなりました。増え続けている認知の人とそのご家族が気軽に、前向きに参加し、少しでもお役に立てるよう積極的に活動しています。

月1回の認知症カフェでも参加して下さる方が増えてきており、「ここに来るの楽しみなんだわ」という声も多く聞かれるようになりました。しかし、施設などに入所している方が、1人でも気軽に参加できてない現実があり、課題となっています。

■ 南幌町赤十字奉仕団（道央圏 南幌町）

事業概要

1. 「第12回ボランティアフェスタなんぽろ」に参加して、ハイゼックス（日赤災害救援用炊飯袋）を使用し、炊き出し及び豚汁を作り、団員自身の緊急時の対応への再確認としての訓練と、来訪者への実演展示、防災意識の高揚及び赤十字活動への理解と募金の意味を目的といたしました。



当日、団員参加者は22名、他のボランティア団員との兼務者もあり、他の団体参加者としての参加もありましたが、高い参加率でした。

2. 新入学児童に対しての南幌町マスコット「キャベツ君」をフェルト布等で小さな人形を作成しました。当日は団員22名参加。新一年生38名分作成する事業です。新一年生に入学式当日に贈呈。児童はランドセルに付けて通学しております。

活動の成果

1. 診断員の参加者もあり、ハイゼックス、炊き出しの技術の訓練、及び再確認しました。来訪者への炊き出し実演展示及び赤十字奉仕団活動の理解で大いに成果はありました。豚汁200食、試食米は全て配食いたしました。

2. 当日(2/21)は他のボランティア行事もありましたが、団員は22名参加しました。10:00~12:00まで、22個完成。残り18個は未完成でしたが、各自自宅で仕上げる事として、38個(予備を含めて40個)作成しました。

4月入学式に贈呈しますが、赤十字奉仕団の活動理解として成果が見込まれます。

■ 手話サークル室蘭白鳥の会（道央圏 室蘭市）

事業概要

- ・毎週水曜日、手話の勉強会を開き、手話の普及、聾者との交流を深めました。
- ・地元の小学校を訪問し、手話コーラス、口話伝達ゲーム等の中から、聾者への理解、手話の必要性を促し、手話の学習をしました。
- ・手話啓発の為にイベント（ふれあい祭り、市民手話を知る会など）を開催し、聴覚障害者への理解を深めてもらいました。
- ・聴覚障害者開催の行事に参加し、交流を深め、聴覚障害者協会の活動を支援しました。



活動の成果

小学校の手話指導訪問により、子供たちが手話を特別な目で見ること無く、コミュニケーションの手段のひとつとして捉えてくれた事が手話普及活動の成果となりました。

手話啓発の為にイベント開催により、聾者への理解が広がり、手話に興味を持ってくれる人が増えてきました。それによって、聾者にとっての少しでも住みよい社会作りの一助の貢献しました。

■ 蘭歴建見会（道央圏 室蘭市）

事業概要

明治5年の開港以来、北海道の近代化を支えた港湾や重工業の街として栄えた室蘭の歴史を物語る建造物を調査・記録し、次世代につなぐために、市内の歴史的建造物マップを制作し、価値を発信しています。28年度は『室蘭 歴史的建造物探訪2 街歩きマップ～神社仏閣教会編～』を完成させ、6月4日に掲載物件をめぐるまち歩きを行いました。



建築を学ぶ室蘭工業大学の学生や一般市民を含め30名がまちを歩き、建造物について理解を深めました。マップは3000部を印刷し、観光協会窓口などで一般に配布されています。

活動の成果

- ・室蘭市内において歴史的建造物が存在する神社・仏閣・教会の情報をまとめ、建造物に興味を持つ市民に提供し、歴史的建造物について市民の理解を深めることができました。
- ・6/4に、マップ掲載物件の内部見学を含むまち歩きを行い、歴史や建造物の価値を

多くの市民とともに、実際に確認することができました。市民からは「価値ある建物があることを初めて知った」「ぜひ残して行ってほしい」という声があがり、今後の活動活発化につながると考えております。

- 市役所各課に配布したところ、移住者からの宗教施設に関する問い合わせの対応に活用したいなどの声があり、広く活用できることが分かりました。
- マップを作る過程で、室蘭が開拓された過程を追うように宗教的施設が建設されていることが分かり、建造物が物語る歴史を新たな視点で発信することができました。

■ つどいお茶の間の会（道央圏 洞爺湖町）

事業概要

地域に住む方が自由に集い気軽にいつでもおしゃべりができる場として活動を続けていますが、他の地域ではどの様に活動をしているのか見たり、お話を聞いてみたいと思い、町の福祉バスを利用させていただき登別市の「NPO法人ゆめみ〜る」さんとの交流意見交換会を実施致しました。

当会では本格的な食事は無理ですが、時には気軽なカフェを開き、地域の人にお兼を飲みながらおしゃべりできるサロンになればと実施をこころみしました。

活動の成果

ひとりでは、なかなか通くまで外出するのが難しい方が多い中、NHK 室蘭放送同、ボルト工房見学とはじめてみる場所ばかりで目を輝かせていました。

また、NPO法人ゆめみ〜るさんとの昼食交流会ではサロン活動のお話しを色々と聞かせていただきとても参考になりました。話が弾み楽しい一日になった様です。

これからも実施していければと思いました。

サロンカフェでは、準備する側もいつもと違いちょっと本格的にコーヒーを入れたりお抹茶を点てたり、お集子も手作りで和気あいあいと楽しいカフェになりました。

多くの方の参加が期待できるかも知れません。

■ 函館スイ・スイ・スイミングクラブ（道南圏 函館市）

事業概要

今年度は、28年4月から29年3月迄、35回の開催予定で、プールの行事で一回だけ開催出来なかっただけで、ほぼ予定通り開催出来、6名の会員の内2名が皆勤賞の見込みで、出席状況も良好でした。ボランティアを支えてくれている会員の出席も、平均10人を上回る方がコーチとして、参加協力して頂きました。



5月のお花見には家族の参加もあり、沢山の方々と親睦を深めることができました。

10月の第22回のハンディキャップ水泳大会には、3名が選手として活躍、9名が

競技役員として参加、函館元町ライオンズクラブから当日10名が応援に駆けつけて頂き、リクレーシヨンの部のお手伝いもして頂きました。

活動の成果

クラブの会員数は前年の8名から6名になり、そのうちの一人が病気のために3ヶ月程休みましたが、会員相互のコミュニケーションも良好で、個々の会員も日曜日を楽しみに通ってくれました。また若い方がコーチとして参加して頂き活気のある運営が出来ました。10月の大会には3名の参加でリレーを組めなかったため、次年度の課題となりました。

ただ札幌で行われた障がい者水泳大会にエントリーし自己ベストを目指す会員が生まれたことは、小さな一歩を踏み出したと感じています。

10月のハンディキャップ水泳大会に、平成27年から函館元町ライオンズクラブから選手全員にメダル・記録賞・ジュース200本を寄贈して頂き、ライオンズの方々に障がい者の水泳にも関心を持って頂くことができ、これからも継続して頂けるよう働きかけていきます。

■ WEW とかち（十勝圏 帯広市）

事業概要

平成28年4月より月に1回「おびひろ子ども食堂」を開催してきました。

子どもの資困がクローズアップされ始めたころ東京で始まった「子ども食堂」でしたが、「資困」状況にいる子どもに特化して提供することは様々な面から困難でした。

そこで高被生(18歳)までの子どもたちにはだれでも無料で食事を提供することにしました。調理は地域のボランティアが担当しました。ボランティアは皆積極的に手伝いを申し出てきた人たちで、職業も営業担当者、看護師、学校関係者、サラリーマン、専業主婦、退職者など様々な大人が無償でボランティアを楽しんでいるのも「おびひろ子ども食堂」の特徴です。食べに来る子供たちの中には不登校の子どもたちもいるが、子ども食堂でのかかわりを契機として学校へ足が向いて言った子どもたちも複数いました。

3月には地元の高被のクッキング部の協力で、献立から調理まで高校生メインの「子ども食堂」も実施することができ大変好評をいただいた。

活動の成果

「みんなで食べるって楽しいね」をコンセプトに、大人も子供も楽しい「おびひろ子ども食堂」を目指して1年間やってきましたが、子どもたちの笑い声が増え、かかわる大人も様々な立場の人へと広がりを見せています。地域の関心も高く、先生方や福祉関係の研修会や慈善団体の研修会などで子ども食堂の活動を話す機会も増えていきます。地域が子どもの現状に関心を持ち行動を起こしてくれるようになったことは大きな成果です。

子ども食堂を通して、私たちの団体のコンセプトでもある「大人と子供のななめの関係」でかかわれる居場所の一つになりました。

■ まざあぐうす（十勝圏 中札内村）

事業概要

- ・人形劇を小学校、保育園、図書館のイベントで行いました。
- ・お話し(絵本)カルタの制作を行い、小学校で行いました。
- ・保育園で、指人形やペープサートを手づくりし、行いました。



活動の成果

毎日の小学校、保育園での読み聞かせを行っています。

今年は、手作りの人形や絵本カルタなどの製作を行い、子ども達に楽しい時間を過ごすことで、本や物語に親しんでもらうことができました。

図書館イベントでは、多くの子どもや保護者、地域の方々に楽しんでいただけました。

■ ママズケア それいゆ（釧路・根室圏 中標津町）

事業概要

4月～3月までの12ヶ月間、毎月1回の運動教室を実施し、毎回7～8名のお母さん方が参加していただきました。運動教室前には血圧や体重、体脂肪、筋肉量などを毎回測定し自分自身の体の変化を記録していくことで、自身の生活習慣の見直しや運動を続けていくことへの意欲が高まったと思われます。



活動の成果

毎月行うことで、継続的な運動習慣につながったと思われます。育児中はなかなかお母さん自身の体について考える時間もなく、どうしても運動不足になってしまっていますが、こうした機会を持つことで少しでも育児中のお母さんの健康の手助けができれば良いと考えております。

■ 発達障害児とママのためのサークルタンポポ（道北圏 旭川市）

事業概要・活動の成果

発達障害児のママ達が不安に思うこと、知りたいことに合わせて勉強会の内容を少しずつ進化させながら、年13回実施していました。

勉強会に参加することで、ひとりで悩まず、子ども特性を理解し工夫する、前向きな子育てができるようになったとのお話しされる方が多いです。



■ 特定非営利活動法人 音ねっと旭川（道北圏 旭川市）

事業概要

音ねっと旭川では、介護、福祉施設他、地域行事において訪問演奏やレクリエーション、音楽療法を提供しております。

今回は特に冬場外出、困難な施設の方々を訪問させていただき、生の演奏でクリスマスお正月の会を楽しんでいただきました。

子ども会員の演奏はとても喜ばれ地域の方々とはげやかに交流を楽しむことができました。

平成28年10月～平成29年2月9日までに18件の訪問に行き、約1000名の方に演奏を聴いていただくことができました。

活動の成果

外出が困難な高齢者、障がいのある方へ訪問して、生の演奏を届けることができました。ご支援いただけたことで普段あまり遠征できない近郊の町へも足を運ぶことができ、大変多くの方々とはげやかに交流を持つことができました。

■ 特定非営利活動法人 びえいくらしの助けあい（道北圏 美瑛町）

事業概要

高齢者、一人暮らし、障がいをお持ちの方を対象とし、月4回のサロン事業の一つとして、年1回は郊外の会館を借り、町の福祉バスで秋景色を見ながら移動し、地域に住む老人会の人たちにも声を掛け、10月12日、「あおぞらのつどい」サロンを開催しました。

総勢50名様集まり、10時頃より会館で、和やかに穏やかに茶話会となり、昼食をはさんで、ハーモニカ演奏、慈光園バンド演奏で手



拍手を取り、小さい歌声で会場は盛り上がりました。

昼食はカレーライスを作り、配食・食器の片付け等は参加された人々の手を借り、企画した会として、一体となってサロン会が開催できました。午後は自由に過ごす時間とし、周りの田園風景や紅葉を見ながら、14時過ぎに終了し、バスや自家用車で帰る人たちが楽しく過ごし、健康づくりに協力することができました。

活動の成果

「あおぞらのつどい」サロンは、今年で12回目、今回は総勢50名の参加者があり、その多くは、70代～90代の年齢で、徐々に外出の機会が少なくなり自宅での生活を送っているため、町の福祉バスを利用し、又、町内会長さんに文書を送り参加者を呼びかけにより、多勢が参加されました。また、地元出身の方達によるハーモニカ演奏、町内の老人施設の協力で職員のバンド演奏で会場が一体化し、集まった人々の喜びの表情や声を聞くことができました。街から離れた地域に住む方々からは、「来年もやってやー」「来年も呼んでやー」と声を聞くことができました。今回は行政・地元の老人施設、関係機関の協力を得ることができたことにより、大盛況のサロン活動でした。

課題として、会員スタッフの協力人数、準備等、会場場所等、工夫が求められています。

■ ふらの・ものがたり文化の会（道北圏 上富良野町）

事業概要

宮沢賢治の童話「樫の木大学士の野宿」というおはなしに取り組んでいます。「第一夜」「第二夜」「第三夜」の三部作ですが、町のジオ・フェスタ（5月15日）で「第一夜」を朗読しました。6月から来年3月までかけて、「第二夜」「第三夜」に取り組み、3月26日発表会をする予定です。おはなしの主人公になって、「宝石さがしに出かけよう」とみははりきって出かけました。



活動の成果

いつも、子ども達と代表と大人2名くらいで行動することが多いですが、今回は、子ども達と同時に大人の興味も高く、初めてのボランティアが3名参加してくれました。子ども達も宝石というものが、山の中や海にあることを知りびっくりでした（お店で買うものという子が多い）。

たくさん見つけ大喜びでした。上富良野という山に囲まれた所に住んでいるので、海を見ることも大きな喜びでした。

■ 小平町在宅介護者を支える会（道北圏 小平町）

事業概要

町には、食堂や喫茶店がなく、高齢者が気軽に集まり交流できる場がありませんでした。住民から、「気軽に集まって、話をする場がほしい」と声が聞かれ、平成18年4月より、本会会員が月1回、食事(うどんやそばなどの軽食)提供を行い、交流の場を設けました。

この活動は、同年10月には町内2カ所に広がっており、多くの高齢者が喜んで参加していただいております。

活動成果

サロンでは季節にあわせた食事の提供をしたり、うどん打ち体験が恒例となっています。参加者からは「参加できてうれしい」「みんなで食べるとおいしい」という声がかけられています。

食事提供の他に大人のぬり絵を楽しみ、出来上がった作品は町で行われている文化展に出展しています。

地域の交流を通して住民の開じこもりを減らし、地域の孤立感を解消できるよう、皆が支えあう地域づくりを行っています。

■ ぐうちよきばあの会（道北圏 猿払村）

事業概要

ぐうちよきばあの会は週に1回集まって、絵本の読み聞かせをはじめとする、手遊びやゲーム、エプロンシアターなどの活動を行っています。現在、88名の会員が登録しており、親子間の交流のみならず、異年齢交流の場にもなっており、子育て中のお母さんや子育てを経験したお母さん方が集まるので、子育ての悩みについての相談や情報交換ができる場となっています。



活動の成果

今年度の活動について週に1回程度集まり、参加した子どもたちへ絵本の読み聞かせや手遊び、ゲーム、エプロンシアターなどを行いました。また、12月にはクリスマス会、3月には入園・入学おめでとう会などの大きな事業を実施することにより、多くの会員が参加し、親子間の交流をはじめ、猿払村の心豊かな子どもの育成につながる事業の実施ができました。特に親子間の交流では、子育て中のお母さん方が子育ての悩みについて相談や情報交換ができる貴重な場となりました。

■ NPO 法人 利尻ふる里・島づくりセンター（道北圏 利尻町）

事業概要

6月からおぼろ昆布の伝承事業を開始し、大型客船が寄港するタイミングに併せて3回実施したことで、地元住民を対象に2回実施しました。観光の方は初めての体験に最初、戸惑いながらも、利尻島の食文化に触れることで、旅行をより良いものにできた実感した。「ここが一番楽しかった。」「ここに来てよかった。」との声が聞けたことで、この事業の成功を確信しました。利尻島では昆布の販売は行われているものの、昆布に実際触れる機会が少なかったが今回の取り組みで昆布をより身近に感じさせることができました。



おぼろ昆布掻き職人の吉田氏にもご協力頂き、地域の方とのコミュニケーションの場の創出や、地元に住んでいる方が地元の食文化に対する興味を醸成することができました。

活動の成果

今回の事業を行ったことで、おぼろ昆布掻き職人の吉田氏の商品をホテルに卸したり、他の観光施設で販売するなど、地域の方の所得の向上につながりました。地域の住民が今回の事業によって体験をすることで、地元に住んでいてもどういう風におぼろ昆布を作るのかわからなかった方が、利尻の食文化に蝕れる良い機会になりました。

観光でいらした方へは、一種のブランドである利尻昆布の加工を見て蝕れて体験することで、利尻島のファンの方を増やし、利尻昆布について、より深い知識を得て、自分の地域へ戻っても、また吉田氏へ連絡し、昆布を注文したいとおっしゃっていました。

結果、最終的に地域の所得の向上に繋がり、地域の人からの地元産品に対する愛着を増やすことに繋がったと自負しています。

■ 常盤見守り隊（オホーツク圏 北見市）

事業概要

北見市立西小学校児童の登下校時に交差点等に立ち、交通事故から児童を守りました。

スタッフジャンパーを整備することにより、不審者との区別を明確にすることができました。

さらに、活動を広げ、同校周辺の高齢者宅を訪問し、交通安全の啓発を行いました。



活動の成果

スタッフジャンパーの整備により、不審者との区別が明確になり、気持ちよく事業に

専念することができました。

さらに、活動を広め、高齢者宅を訪問して交通安全の啓発を行うことができました。又、賛同者2人が会員となり、ボランティアスタッフの人数が増えました。

■ 一般社団法人 北海道フロアボール普及プロジェクト（オホーツク圏 遠軽町）

事業概要

遠軽フロアボールカフェは、年齢を限定せず、不定参加でも大歓迎し、入会などという制度を廃した、町民開放型のスポーツ振興事業です。単にフロアボールという多世代交流に適したニユースポーツを取り入れることで、幼児から大人まで幅広い世代の町民を呼び込むことができました。参加の割合は、子供6割、大人4割です。フロアボールの特長として、



幼稚園児などでも一緒に遊べるので親子での参加風景多数見られました。メジャースポーツでは実現出来ないスポーツの価値を参加者の皆様には感じていただけたものと考えております。活動中にはケガ等の事故もなく、安全なスポーツであることも証明できたと思います。さらに町民開放型のスポーツ活動ということで、毎回のように新規参加者があり、地域の中での出会い・繋がりを創ることができたと考えております。

活動の成果

この事業では、事業自体がカフェのような雰囲気になることを目指しました。つまりカフェのマスターがいて、来た人全てが楽しめるようにすることを目的としました。その目的を達成するためには、初心者には常に気を使い、上級者が適宜教える体制が必要です。

われわれは、指導に関しては完全にボランティアで行っていますが、とくに命令することもなく、大人達が子供に目を配り、教えながら楽しむという雰囲気を醸成できたと考えております。1つの課題は、大人がそれぞれ仕事をもっており、この事業の時間に現場にいる大人を確保するのが大変なことであったということです。いくらボランティアでやっているといえども、大人の仕切り役の確保は、しっかり体制を整えている必要があります。今後は、大人の一人ひとりが、地域の中での使命感を持って、この事業の継続維持に関わってほしいと考えております。

■ はまなすボランティアサークル（オホーツク圏 湧別町）

事業概要

「ふれあい独居訪問」は、会員の在住する自治会に住まわれている70歳以上の独居の方を対象に、毎年5月に実施しています。

簡素になりがちな食事の「お伴」になりそうな品を届けながら、世間話をして、私達なりの安否確認になればと思い、続けております。



活動の成果

最初の訪問時は、怪訝な表情をされたり、堅く受取を拒否される方がおられましたが、顔見知りの会員や事業の説明すると安心されて、“ありがとう”とうけとっていただけました。その語、道で会ったり、買い物・お祭りなどで見かけると笑顔で挨拶を交わしたり、バザーへのご協力の連絡をいただくこともあり、お互いに、次回の訪問を楽しみにしております。
